

第19回 障害者芸術・文化祭「美術工芸作品公募展」

審査員講評

今年は、「絵画の部」「書道の部」「写真の部」「工芸・その他の部」の各部門を合わせて、412点の応募がありました。

「絵画の部」(229点)は、エネルギーのある力作が多数見られました。従来にはなかった新しい表現の作品もあり、今後が楽しみです。ユーモラスな作品、力強い作品、丁寧な作品など個性が際立つ作品は人の目を引きつけます。そして「絵画」とはこのようなものという常識を忘れることで面白い作品が生まれます。表現する素材や方法も自由なので、もっともっと自分にピッタリの方法を探してください。思いを伝えるということを常に考えながら描き続けていただきたいです。

「書道の部」(88点)も、大作や力強い作品が多く見応えがありました。素直な気持ちで書に向き合っていて、見ていて嬉しい気持ちになります。にじみ、かすれなど表現も多様になり、今後が期待されます。筆で文字を表現するという限られた世界ですが、思い切ってトライすると楽しい世界が広がります。そして、やはり大きな作品、伸びやかな作品には人を引きつける力があります。好きな字を好きなように堂々と書くことを目指してください。書きたい言葉を自分なりの方法を工夫しながら数多く書いていただきたいです。

「写真の部」(25点)は、今年も残念ながら出品点数が多くありませんでした。写真は思いを表現するのが比較的容易なように見えて、逆に個性を表現するのが難しい世界です。ただ、今やスマートフォンでも十分に見栄えのする写真が撮れますので、もっともっと多くの方に挑戦していただきたいです。上手な写真、どこかで見たことのある写真を撮ろうとするのではなく、自分が驚いたこと、嬉しかったことなど自分の心の動きを自分にしか撮れない表現で追求してください。より多くの方の出品を期待します。

「工芸・その他の部」(70点)は、多様な表現で楽しめる作品が多く見受けられました。制作時の「熱」を感じる作品や、新しい表現を試みる作品もあり、従来以上に楽しく見ることができました。少し幅広く興味を持ってテクニックや素材等に様々なチャレンジをしてみると新しい世界感が生まれ、視野が広がります。そして、好きなもの、好きなことにこだわって作られた作品は魅力的です。自分にしか作れない作品づくりをこれからも続けてください。

今年度は、昨年度を大幅に上回る作品が出品されました。特に絵画部門は、出品数全体の半数以上を占め、優れた作品も多かったように思います。一方で、写真部門については出品数が少なく、より多くの方にチャレンジしていただきたいです。まずは心の赴くままにシャッターを押してみられてはいかがでしょう。

来年度も「美術工芸作品公募展」を、ここ県立美術館で開催する予定です。ぜひ多くの方に出品いただくとともに、より個性にあふれ、人の心を動かす作品を期待しています。

来年も皆さんからの出品を心よりお待ちしております！

第19回兵庫県障害者芸術・文化祭「美術工芸作品公募展」審査員(順不同)

WAKKUN (イラストレーター、絵本作家)

宮崎 みよし (美術家、みよしアートプランニング)

中澤 光昭 (兵庫県高等学校教育研究会書道部会元会長)

服部 正 (甲南大学文学部教授)

大槻 和浩 (神戸芸術工科大学特任教授、画家)